

太古から現在まで下北の地を吹き抜ける

うそりの風

第10号

2025.3

「福浦の歌舞伎」

参陣記

ジュニアのページ

- 下北を築いた人々⑦ 開拓者 佐々木 弘造
- むつ市の寺社の献納額 (1)
- 下北の神楽から 目名太神楽・栗山太神楽・小目名大神楽
- 旧斗南藩士族攷 (2)
- 恐山今昔 (4)

■ 誌上ギャラリー

「うそりの風」

農業法人「寅福」（北海道上ノ国町）のグループ会社「寅福プラント」（青森県むつ市）が同市田名部斗南岡で運営する大規模トマト工場が、2024年7月に初めて収穫して、1日平均7トンのトマトを全国のスーパーへ出荷している。

多くの野菜は収穫された後も呼吸をし、呼吸をするときに自分自身の栄養分を分解しエネルギーを作り消費し、さらに水分も蒸発して鮮度が落ちていく原因となり、美味しさも失われていく。

このため、生産地から遠い東京などは、新鮮なものが手に入らないため、ものを加工する調理技術が発達し、新しい付加価値を付けたものを飲食し、さらに全国の消費者に届けている。

逆に、北海道は新鮮なものは収穫できるが、地理的にも消費者と遠く、新鮮なものが届けられないため、農畜産物や魚類などの加工技術が発展し、新しい付加価値を付けた新しい商品が製造、販売され、全国で開催される「北海道展」が盛況となっている。

明治時代における福島県の衆議院議員半谷清寿（はんがい せいじゅ）は著書『将来之東北』のなかで、『東北に産物あれども商品なし』と述べている。清寿は、織物会社を設立し、相馬羽二重業を起こしたりした産業人でもあった。

こうした中、下北の現状は、明治時代のままの『産物あれども商品なし』で、下北の生産者は地産地商に甘んじて、農畜産物や魚類などを加工して、製造・販売する産業人が育っていない。

令和7年3月

うそりの風の会 会長 祐川清人

うそりの風 第10号

目次

▶「福浦の歌舞伎」参陣記 清水 克彦 構成 編集部・・・2

●ジュニアのページ

下北を築いた人々⑦ 開拓者 佐々木 弘造 竹浪 和夫・・・19

●むつ市の寺社の献納額（1） 三浦 順一郎・・・34

●下北の神楽から 目名太神楽・栗山太神楽・小目名大神楽 中嶋 康夫・・・・44

●旧斗南藩士族攷（2） 甲羽 智武・・・・54
～旧斗南藩士族が三本木原台地で関わった授産事業～

●恐山今昔（4） 祐川 清人・・・64

■新刊紹介・・・・・・18

■一枚の絵・・・・・・33

■ちょっとコラム 歴史一口メモ・・・・79

■うそりの風 バックナンバーのお知らせ・・・・80

■うそりの風の会 会則・・・・・・83

誌上ギャラリー うそりのまにまに
表紙裏、裏表紙

うそりの風の会 会誌

うそりの風 第10号

令和7年3月19日発行

頒価本体1364円

編集・発行 うそりの風の会

会長 祐川清人

印刷所 協同印刷工業株式会社

青森県むつ市金曲1-15-8

電話 0175(22)2231